

特集 | リジェネラティブ・デザイン

脱炭素社会の先にある社会はどのようなものでしょうか。「サステナブル(持続可能)」は、環境負荷を最小限にし、人間活動の範囲内で現在の自然環境を持続可能なものにしていくことですが、この考えを一步進め、自然環境の循環サイクルの回復や生態系の再生を促し、環境により良い影響をもたらす「リジェネラティブ(環境再生)」の概念が欧米を中心に提唱され始めています。リジェネラティブ・デザインとは、これまでは人間を中心に自然環境への影響について考えてきたものを、人間を自然環境システムの一部として、本来あるべき自然環境や生態系への積極的な働きかけを行う広義のデザインを示します。

リジェネラティブ・デザインを目指す基準はまだ定められていません。建築分野においていえることは、エネルギーは再生可能エネルギー、水は雨水などの再生資源の利用を行い、廃棄物も含めてネットゼロにすること、人間活動や建築物の資材使用・建設・運用・維持・解体・廃棄を含めたホールライフカーボンで排出するCO₂を自然環境によって吸収することです。その上で、無害な資材を利用し、耐久性や寿命も考慮し、解体・再生利用が可能な構造とすることでしょう。そして、人が環境に働きかけることで、すべての人にとって公平となり、コミュニティの形成とともに、健康と幸福をもたらすことであると考えられます。

本号では、リジェネラティブ・デザインの観点から、サステナブルな活動の先にある社会や経済のあり方を捉えるとともに、都市、建築、生態系の維持、資源循環、農業分野等において活躍されている方々に、最前線の話題を紹介いただくことにより、今後の社会環境デザインを一緒に考えていきたいと思えます。